

歯科医院で漢方薬を処方されることが国民の共通認識に！

オンデマンド

「ここからはじめる、ず〜っと続ける歯科漢方薬」

第1部 徹底解説 最頻用「五苓散」

第2部 歯科13方剤以外

配信3月31日～4月30日



Peatixから
申し込み
QRコード

日本歯科医師会発行「薬価基準による歯科関連薬剤点数表」に掲載された漢方薬13方剤（半夏瀉心湯、黄連湯、茵陳蒿湯、葛根湯、立効散、芍薬甘草湯、排膿散及湯、五苓散、白虎加人参湯、補中益気湯、十全大補湯、桂枝加朮附湯、平胃散）は歯科で保険適用される漢方薬として注目されているが、患者のほとんどは「歯科で漢方薬治療ができる」ことを認識していない。その原因は、まだまだ全国の歯科医院で漢方薬が処方されず、歯科治療と漢方薬が結びついていないからだ。学会はこれまでの教育課程で漢方薬について学ばなかった歯科医師に対し、歯科治療のオプションの一つとして漢方薬を処方できるようになることを目標に、漢方薬治療の啓蒙を行う。

第1部では歯科最頻用処方である「五苓散」について徹底解説し、実際の臨床例について解説する。第2部では13方剤以外の処方について歯科臨床での応用、可能性について解説する。

第1部 五苓散処方に必要な基礎理論、処方解説、注意点

五苓散～古典解釈と最新研究について～：日本歯科東洋医学会会長 山口孝二郎

五苓散臨床例：

口腔乾燥と水

：都立駒込病院歯科口腔外科 池浦一裕

当科における五苓散の使い方

：東京科学大学附属病院歯科 歯科ペインクリニック 新美知子

唾液排出障害疾患に対する五苓散による治療経験

：岐阜・西濃医療センター西美濃厚生病院歯科口腔外科 杉山貴敏

第2部 13方剤以外の方剤解説と歯科臨床

口腔異常感with「喉の詰まり感」－歯科臨床での半夏厚朴湯の有用性－

：東京医科大学口腔外科学分野 安田卓史

抑肝散の歯科口腔外科での応用

：昭和医科大学医学部生理学講座生体制御学部門生体制御学部門 砂川正隆

婦人専用ではないですよ！加味逍遙散

：おもかわ歯科医院 表川実哉

ドライマウスに麦門冬湯

：むくなし歯科医院 椋梨兼彰

桂枝茯苓丸と血の滞り

：ABO歯科クリニック 英保武志

腫れと瘀血に治打撲一方

：くぼ歯科 久保茂正

参加費	職種	学会員	非会員
	歯科医師・医師・薬剤師・鍼灸師	10.000円	20.000円
	卒後5年以内の歯科医師	5.000円	10.000円
	歯科衛生士	5.000円	10.000円
	学生（学部生）	無料	

